日本語訳

第 10 回 NPT 再検討会議 NGO セッション
2022 年 1 月 6 日 (ニューヨーク国連本部)

田上平和首長会議副会長（長崎市長）スピーチ

77 年前に、街の真上で原爆がさく裂した長崎から、一編の詩を紹介します。原爆で家族を失い、自らも大けがを負った、17 歳の女性が綴った詩です。
目を閉じて聞いてください。

幾千の人の手足がふきとび
腸わたが流れ出て
人の体にうじ虫がわいた
息ある者は肉親をさがしもとめて
死がいを見つけ　そして焼いた
人間を焼く煙が立ちのぼり
罪なき人の血が流れて浦上川を赤くそめた

ケロイドだけを残してやっと戦争が終わった

だけど……
父も母も　もういない
兄も妹ももどってはこない

人は忘れやすく弱いものだから
あやまちをくり返す
だけど……
このことだけは忘れてはならない
このことだけはくり返してはならない
どんなことがあっても……

皆様、想像してください。
核兵器がどれほど人間を苦しめたのかを。
そしてこの惨劇は、核兵器が存在する限り、誰の身にも起こり得ることだということを。
核兵器による危機感が増している今、ＮＰＴ再検討会議が、現在と未来への責任をどのように果たすのか。世界が注目しています。
「人間の安全保障」の視点に立った議論を深め、世界の核軍縮を実質的に進展させる最終文書の合意に至ることを切に願います。ご清聴ありがとうございました。